

IV 令和3年度普通会計の決算状況

普通会計とは、地方公共団体の財政状況の把握や財政比較等のため、統計上統一的に用いられる会計単位で、公営事業会計以外の会計を一つの会計としてまとめたものです。

算出にあたっては、一般会計と公営事業会計に属さない特別会計を合算しますが、単純に合計するだけでは会計間の重複(相互間または他会計とのやりとり)により財政規模が実際より大きくなるため、この重複部分を控除して正味の決算額(純計決算額)に調整しています。

本市では、一般会計及び公共用地造成事業会計を普通会計として、上記の調整を行い、純計決算額を算出しています。

1 普通会計決算規模及び決算収支

令和3年度の普通会計決算額は、歳入845億2772万6千円、歳出818億6846万8千円となり、前年度に比べ、歳入29億7322万2千円(伸率△3.4%)、歳出34億655万1千円(伸率△4.0%)がそれぞれ減少しました。

この結果、歳入歳出差引額(形式収支)は、26億5925万8千円で、この形式収支から翌年度へ繰り越すべき財源3億9028万7千円を控除した実質収支は、22億6897万1千円となりました。

なお、実質収支(剰余金)は、その1/2以上を財政調整基金に積み立てるなど次年度以降の財源調整に活用しています。

第9表 普通会計決算収支の状況

(単位:千円)

区 分		令和3年度 a	令和2年度 b	比 較	
				a-b	a/b×100
歳 入 総 額	A	84,527,726	87,500,948	△2,973,222	96.6%
歳 出 総 額	B	81,868,468	85,275,019	△3,406,551	96.0%
歳入歳出差引額 (A-B)	C	2,659,258	2,225,929	433,329	119.5%
翌年度へ繰り越すべき財源	D	390,287	680,323	△290,036	57.4%
実 質 収 支 (C-D)	E	2,268,971	1,545,606	723,365	146.8%
単年度収支 (E-前年度E)	F	723,365	279,806	443,559	—
財政調整基金積立金	G	3,130,342	969,819	2,160,523	322.8%
〃 取崩額	H	773,159	1,469,960	△696,801	52.6%
市債繰上償還金	I	524,307	7,403	516,904	7,082.4%
実質単年度収支 (F+G-H+I)	J	3,604,855	△212,932	3,817,787	—